初心に帰るお話しをありがとうございました

佐藤恵美子
（放課後等デイサービス児童指導員
NPO 法人理事長）

高浜敏之さま

初めてお便りします。
私は山形市内で障害児者の福祉に関わる小さな NPO 法人を運営しております。
先生の資料を見た時に、いつだったか、株式会社土屋様から私のところに M＆A の封筒が届いたことを思い出しました。どうして岡山の会社から？なぜうちに？と思いつつも、事業承継はもうしばらく先と思っていたことや、いろんなところから M&A の手紙が時々届くこともあり、御社がどういうところかも調べもせずに、すっかり忘れておりました。

高浜先生の講義を聞きながらいろいろなことを思い出しました。
1995 年の 4 月に私的契約によるレスパイトサービスを始めた時に「障害者から金をとるのか！」と言われたこと「地域で生きていく、なんて言っているが、この子たちを自宅の座敷牢の暮らしに逆戻りさせるのか！」と問われたこと…。

高校生の頃、病院を出て一人暮らしをしている筋ジストロフィーの患者さんのボランティアを希望して面接してもらったこと、その時にその方から「ボランティアだからといっていい加減な気持ちでは困る。テストがあるから、部活があるから、遊びに行くからって休まれることは自分の命にかかわること、そんな気持ちがちょっとでもあるなら来てもらうのは迷惑なことだ。」といわれたこと、その言葉にまだ素直な高校生だった私は「ボランティアじゃだめだ、プロにならなければ」と思ったこと、でもそんなことはすっかり忘れて？大学受験の時には福祉系の大学を受験しようとはツユとも思わなかったこと（お恥ずかしい限りです)、でも大学を卒業する時に突然そのことを思い出したこと…。書ききれないほどたくさんのことを思い出し、初心に帰ることができました。

2002 年に NPO 法人を選んで法人化したのは、支援費制度に対応することが利用者の方たちの経済的な利益になること、その当時は株式会社よりハードルが低かったことが理由です。今だったら私も株式会社の道を選んだかもしれません。スタッフにいい仕事をしてもらうことは利用者の方たちにとっても大切なことで、そのためにはきちんと利益を出しスタッフや事業所の環境等々に還元することが大切だと思っているのは同じです。思ってはいても現実には経営者としては落第なのですが。

1995 年にレスパイトサービスからスタートした当初から「地域で誰もが（マジョリティもマイノリティも、障害児者もその家族も）年齢相応のその人らしい暮らし・生き方をすること、失敗も成功も含めて同じ時代を生きる同年代の人と『同じ権利、同じ義務、同じチャンス』を願って」コツコツと仕事をしてきました。高浜先生の会社とは規模も違うし、行動力も違うし、などと思いながらも小さな一歩でも社会を変えていくことはできると信じてこれからも仕事をしていこうと勇気をいただきました。

自分の事ばかり書き連ねて、全くレポートにはなっていませんが、自分の身に引き寄せ聴かせていただいたこと、たくさんの気づきをいただいたこと、感謝しています。
ありがとうございました。